

第3期広島市立大学塾活動報告【10月19日】

情報科学部1年

小牧 篤史

今回の活動は土曜日に実施された。その日は「ひゅーるぼん」という施設に活動体験をさせていただいた。「ひゅーるぼん」は遊びや行事を通じて、障がいをもった子供たちの発達成長を支援する施設である。

入って最初に印象に残ったことは、みんな大はしゃぎであったことだ。楽しそうにレースやボードゲーム、相撲にお絵かきなど思い思いにみんな楽しんでいる。障がいをもっているとはとうてい思えなかった。子供達と遊ぶ時間は楽しくてあっという間だった。

そして遊んでいる中で感じたことがある。遊んでいる時のみんなはとにかく考え、体を全力で動かし、私以上に活発だったということだ。子供達にとっては当たり前かもしれない。しかし誰が次の番か、どうやったら勝てるのか、どうしたらうまく作れるかなど、

今していることについて考える頭の回転はものすごいと身をもって感じた。つまり障がいがあるがなかろうが、特別なことをしなくても、子供とは遊ぶことで頭を使い、コミュニケーションをとり、それが成長につながるのだと思う。さきほども述べたが、夢中に遊んでいる彼らは障がいを持っているとは思えない。それほど子供達にとっての「遊ぶ」というのは我々が思っている以上に楽しく、大切なのだと思う。それを一緒に遊ぶことで感じる事ができた。

最後に「ひゅーるぼん」の創設者でもある川口さんに少しだけ話を伺えた。そしてこの施設は多くの人に支えられたことを知れた。この施設の卒業者や、ボランティアの人たちが毎年何人も来られるらしい。この施設には数多くの人の努力や協力、そしてなにより「遊び」があり成り立っているのだ。